

米子BIMワークショップ

10月2日～4日、美保テクノス株式会社の本社にて「米子BIMワークショップ」を開催しました。

ワークショップでは「美保テクノスのBIM」「ワークショップ」「Revit ゆる～くハンズオン！」が行われ、約5社のゼネコン、地方建設会社が参加しました。



2日目ワークショップ終了後の集合写真

米子BIMワークショップのテーマ

米子BIMワークショップは、「経営層・現場の両側面における建設DXの取組について課題と真剣に向き合い、参加者の皆様と共に地方ゼネコンの将来を一緒に考える場にしてゆきたい」という野津社長の思いにより実現されました。



BIM・ベトナム事業の紹介を行う野津社長

「社屋内覧会」

「社屋内覧会」では、「米子市との防災協定・県内初のZEB Ready・FULL-BIM・大学とのデジタルファブリケーション」について建物を回りながら説明しました。

全体を通して、これらのテーマは参加者の味を惹き、ワクワクする内容として高い評価を得ました。



受付ホールについて説明を行っている様子

「美保テクノスのBIM」

「美保テクノスのBIM」では、「経営層・BIMを推進する部門・現場監督」といった3つの視点によるそれぞれの立場から話を展開されました。

冒頭の説明では野津社長が会社概要を踏まえたBIMに対する期待を述べ、新田氏（BIM戦略部部長）は失敗事例を踏まえたBIM活用の事例を説明しました。

経営層として、建設業におけるテクノロジーをどう捉えて投資するのか、BIMユーザーの今後取り組むべきことはなんなのか、現場でBIMを実際に活用するとどんなメリットがあり課題にぶつかったのか、当事者目線のリアルな話に、「参考になりました」という声が集めました。

実際の現場の体験談として、とある実物件でBIMに取り組まれた話を中心に、“現場にとって助かるBIM”について吉井氏（BIM戦略部）が話をしました。現場でBIMを本格的に取り扱う事例を聞き「ためになったが難しかった」という声が寄せられました。



経営層の話している野津社長



BIMユーザーの話している新田氏（BIM戦略部部長）



現場監督として話している吉井氏(BIM戦略部)

「ワークショップ」

「ワークショップ」では、企業ごとの問題点の見える化を実施しました。

業務・経営目標の例として示された45項目から、各社の営業方針に沿った内容や個人的に感じる課題を最大3つ選んでいただき、その選定理由を共有したうえで具体的な課題をイメージしながらブレインストーミングを行いました。

その結果、人材不足が一番の課題といった結論に至りました。また、トップダウンとボトムアップの間をつなぐ役割を果たす人材が不足しているという問題も浮き彫りになりました。



45項目から選定した理由をお話している様子



選定された45項目のまとめを山田氏（BIM戦略部副主任）

「Revit ゆる～くハンズオン！」

「Revit ゆる～くハンズオン！」では、BIMの概要説明から始まり、Revitを使用したモデリング、最後にパースでの内装チェックが行われました。講師はBIM戦略部でRevitトレーニングを社外でも行うことのできる竹内氏（BIM戦略部課長）と、助手に石川氏（BIM戦略部）が参加しました。Revitが初めてである参加者からは「Revit LTから勉強を始めてみます」など感想が集まりました。



BIMの概要説明を行う竹内氏（BIM戦略部部長）



Revitのハンズオンする様子

著者の感想

美保テクノスのBIMについて一度で理解するのは非常に難しいと感じましたが、今後の地方建設業において確実に必要になると感じました。また、「美保テクノスのBIM」の説明で、BIMをプロセスとして考えることが、重要な点を押さえる上で大切だと感じました。 松根（BIM戦略部）